

平成27年（2015）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、61万0,000人
対前年（H26）同月比 +5万2,700人、+9.5%
～6月の過去最高、外国客は3ヶ月連続で単月過去最高を更新～

入域状況

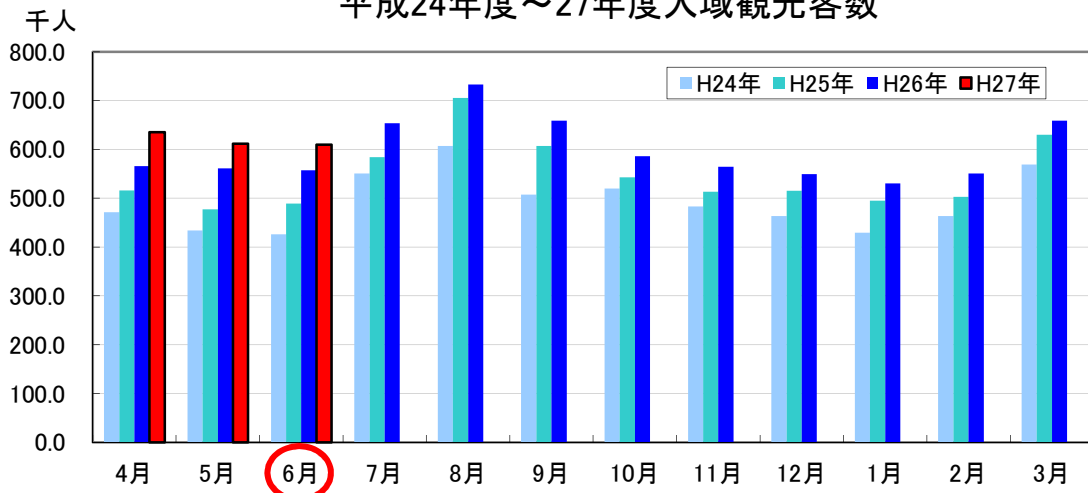
入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	75.5%
外国客	149,200 人	95,500 人	+ 53,700人	+ 56.2%	24.5%
合計	610,000 人	557,300 人	+ 52,700人	+ 9.5%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成26年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
国内客	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	77.7%
外国客	132,400 人	83,700 人	+ 48,700人	+ 58.2%	22.3%
合計	593,200 人	545,500 人	+ 47,700人	+ 8.7%	100.0%

平成24年度～27年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、LCCを中心に好調に推移したものの、東京及び名古屋方面において旅行商品の販売等が一部、伸び悩んだことなどから、前年度をやや下回った。

7月は、台風の影響が懸念されるが、夏場の旅行需要の高まりに向けた夏期増便や機材の大型化等による各航空路線の拡充や、所得環境の改善による需要も期待できることから堅調に推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、引き続き、航空路線の拡充や、クルーズ船の寄港回数的大幅な増加により、空路・海路ともに好調に推移し、3ヶ月連続で単月の過去最高記録を更新した。特に中国の伸びが顕著であった。

7月は、国内同様、台風の影響が懸念されるが、中国本土の3都市からの新規就航が相次ぐこと等による航空路線の拡充や、後半の宮古島・平良港への定期クルーズ船の就航を含む寄港回数の増により、空路・海路客ともに増加が期待されることから、順調に増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	215,200 人	220,100 人	△ 4,900人	△ 2.2%	46.7%
関西方面	106,300 人	100,000 人	+ 6,300人	+ 6.3%	23.1%
福岡方面	56,800 人	55,700 人	+ 1,100人	+ 2.0%	12.3%
名古屋	37,200 人	37,500 人	△ 300人	△ 0.8%	8.1%
その他	45,300 人	48,500 人	△ 3,200人	△ 6.6%	9.8%
合計	460,800 人	461,800 人	△ 1,000人	△ 0.2%	100.0%

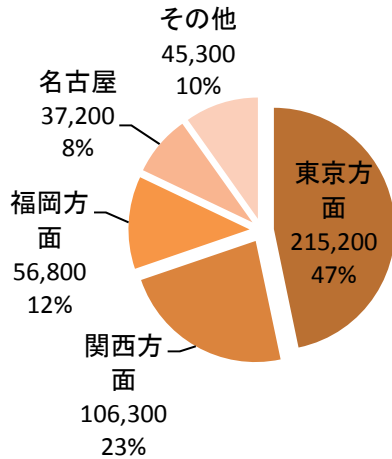
※国内海路客3,600人を含む(鹿児島1,900人、関西100人、その他1,600人)

外国客 国籍別入域状況

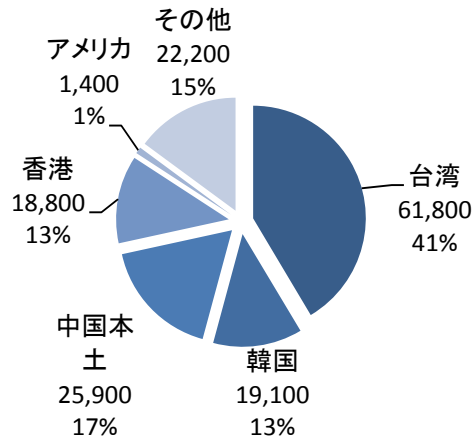
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H27年度	H27年度	H26年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	61,800 人	61,800 人	41,200 人	+ 20,600人	+50.0%	41.4%
韓国	19,100 人	19,100 人	11,400 人	+ 7,700人	+67.5%	12.8%
中国本土	25,900 人	25,900 人	11,800 人	+ 14,100人	+119.5%	17.4%
香港	18,800 人	18,800 人	13,900 人	+ 4,900人	+35.3%	12.6%
アメリカ	1,400 人	1,400 人	900 人	+ 500人	+55.6%	0.9%
その他	22,200 人	5,400 人	16,300 人	+ 5,900人	+36.2%	14.9%
合計	149,200 人	132,400 人	95,500 人	+ 53,700人	+56.2%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	39,900 人	39,900 人	+34.3%	38.7%	21,900 人	21,900 人	+90.4%	47.4%
韓国	19,000 人	19,000 人	+66.7%	18.4%	100 人	100 人	皆増	0.2%
中国本土	19,800 人	19,800 人	+135.7%	19.2%	6,100 人	6,100 人	+79.4%	13.2%
香港	18,600 人	18,600 人	+33.8%	18.1%	200 人	200 人	皆増	0.4%
アメリカ	1,100 人	1,100 人	+37.5%	1.1%	300 人	300 人	+200.0%	0.6%
その他	4,600 人	4,600 人	+2.2%	4.5%	17,600 人	800 人	+49.2%	38.1%
合計	103,000 人	103,000 人	+49.9%	100.0%	46,200 人	29,400 人	+72.4%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、羽田－石垣路線等、離島方面は好調を維持したものの、全体としては前年並みか微減傾向となり、前年度を下回った。
7月以降は、台風や各方面との競合による影響が懸念されるが、ANAの深夜便を含めた各航空会社による航空路線の拡充や、沖縄方面の夏休み旅行人気等により、堅調に推移する見込み。

大阪

6月は、再開したANAの関西－宮古路線が好調だったことや、ジェットスター・ジャパンの関西－那覇路線の増便やピーチ・アビエーションの関西方面の入込が増加したこと等から、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響が懸念されるが、各航空会社による夏場の航空路線の拡充や、今後、駆け込みでの需要も期待されることから、堅調に推移する見込み。

福岡

6月は、前年同月に比べてピーチ・アビエーションの福岡－那覇路線等の航空路線拡充や、例年より早い梅雨明けによる、駆け込み需要の増加等により、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響が懸念されるが、旅行商品の販売状況がファミリー層を中心に好調に推移していることや、日並びの良いシルバーウィークの需要増加が期待されることから、好調に推移する見込み。

名古屋

6月は、ジェットスター・ジャパンの名古屋－那覇路線による航空路線の拡充があったものの、旅行商品の販売が一部苦戦していること等から、前年度をやや下回った。
7月以降は、台風や各方面との競合による影響が懸念されるが、ANA、スカイマークによる夏場の増便が予定されていること、各旅行会社による夏休み後半の旅行需要獲得に向けた商品販売の強化等から、堅調に推移する見込み。

台湾

6月は、華信航空の台中－那覇路線の増便や、クルーズ船の寄港回数が大幅に増加したこと等から、空路・海路客ともに増加し、前年度を上回った。
7月以降は、台風の影響で航空便やクルーズ船に一部、欠航が生じたものの、タイガーエア台湾の台北－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充等から、空路客を中心に順調に増加する見込み。

韓国

6月は、中東呼吸器症候群(MERS)の影響もあり、一部、予約のキャンセルが生じたが、若年層や個人客の多いLCCを中心に堅調に推移したことや、前年同月に比べて航空路線が大幅に拡充したことなどから、前年度を上回った。
7月以降は、ジンエアーによる夏場の増便や、9月にはピーチ・アビエーションのソウル－那覇路線の新規就航が予定されていること等から、順調に増加する見込み。

中国本土・北京

6月は、端午節の連休による旅行需要の高まりに加え、前年同月に比べて定期チャーター(西安－那覇)等による航空路線の拡充から空路客が増加し、前年度を上回った。
7月以降は、夏場の旅行需要の高まりや、中国国際航空の北京－那覇路線の増便、天津－那覇路線の新規就航による航空路線の拡充等により、空路客の増加が見込まれることから、順調に増加する見込み。

中国本土・上海

6月は、上海吉祥航空の上海－那覇路線の増便や、前年同月に比べて定期チャーター(杭州－那覇)による航空路線が拡充したことから空路客を中心に増加し、前年度を上回った。
7月は、中国東方航空の福州及び杭州－那覇路線の新規就航や、宮古島・平良港への定期クルーズ船の就航予定等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。

香港

6月は、引き続き、前年同月に比べて香港ドラゴン航空、ピーチ・アビエーションの香港－那覇路線の増便による航空路線の拡充から、空路客が増加し、前年度を上回った。
7月以降は、航空路線の拡充や香港発のクルーズ船の寄港が予定されていること、また、旅行商品の販売も好調となっていること等から、空路・海路客ともに順調に増加する見込み。